



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	4 記録を活かした教員研修の在り方 (III 保育記録を活用する) (fulltext)
Author(s)	吉川,和希
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属幼稚園, 24/25: 71-73
Issue Date	2013-12-07
URL	http://hdl.handle.net/2309/148361
Publisher	東京学芸大学附属幼稚園
Rights	

4. 記録を活かした教員研修の在り方

前述してきたように、本研究では、記録を活かして幼児理解や援助について振り返り、他の教員と共有し、学び合ってきた。しかし、同じ園内での教員同士では、保育を同じような見方で捉えていたり、見えにくくなっている面があったりするという課題も指摘された。そこで、さらなる保育の質の向上と改善に向けて、外部の教育関係者（以下、参観者と表記する）と保育や記録について語り合い、学び合うような機会を設けることにした。平成24年12月8日（土）に行った研究協議会では、実際に参観者にも記録を書いてもらい、それをを用いて検討会を行った。このような試みが、教員研修の一つとして位置付くのではないかと考えた。

(1) 記録を協議会に用いる目的

- 目的1 本園の記録の内容を、参観者に提案する
- 目的2 本園の記録の内容を使って、焦点を絞って議論する
- 目的3 保育を多面的に捉え、自分たちの学びに取り入れる

A blank record sheet for observers. It has a large empty box at the top for writing. Below the box are three horizontal lines labeled A, B, and C, corresponding to the purposes listed on the left.

図1. 参観者用記録用紙

(2) 方法

- 参観者には、保育前に参観者用記録用紙を配布した。(図1)
- 用紙には、A: 幼児の経験している内容、B: 必要な経験、C: 具体的な援助としての環境の構成、を書く欄を設け、観察対象場面について記入してもらう。
- 保育後の学年別検討会では、参観者は、観察対象ごとに4, 5人でグループになってもらう。各自の書いた記録A, B, Cをもとに、バズセッションを行う。グループごとのA, B, Cを出し、用紙にまとめてもらう。(一つの答えを出すことが目的ではない。)
- 各グループのA, B, Cを集め、一覧表を作る。(図2) それを活用して、さらに、参観者と担任が協議する。

A summary table showing the collected A, B, and C from four different groups. Each group's data is written in a separate section of the table, with handwritten text in Japanese. The table has columns for Group 1, Group 2, Group 3, and Group 4, and rows for A, B, and C.

図2. 各グループのA, B, Cを集めた一覧表

(3) 参観者の学び

記録を用いた学年別検討会について、アンケートを行った。先の目的1, 目的2に沿った参観者の感想は以下の通りである。

目的1 本園の記録の内容を、参観者に提案する

- 記録の難しさを感じた。記録をとることで援助が具体的になってくる良さと、そのことでそれにとらわれてしまう難しさと、子どもの心動くものとの関連性を考えさせられた。
- 子どもの経験していることが、活動内容に偏っているように感じた。

- ・日頃、決められた様式で漠然と記録していたので参考になった。特に、経験させたい内容を明確にしていく大切さを感じた。
- ・漠然と見るのではなく、子どもたちの成長にどのように活着ているのかを考える大切さを感じた。
- ・評価のマークは、分かりやすくイメージできるものだった。
- ・具体的な記録をもとに話し合いができ、悩みも出して頂き、より身近に感じながら参加できた。
- ・こんなに生々しい研究会に参加できたことに感謝する。
- ・構えて良い記録を書こうとするのではなく、ありのままに記入して、日々の記録を積み上げていくことの大切さを再確認することができた。
- ・日の記録は、続けることにより教師の子どもを見る能力は高まっていくと思う。改善しながら続けてほしい。
- ・他者から見てもらったことがないため、他者からも分かりやすい記録にしていきたい。

目的2 本園の記録の内容を使って、焦点を絞って議論する

- ・少人数での絞った話し合いができてよかった。具体的に考えていくきっかけができた。
- ・それぞれの考えを出し合うことで学べるので、少人数で視点が明確になった話し合いは大変よかった。
- ・参観者の保育を見る視点が決まっていたため、一人一人の子どもたちをじっくりと見て、読み取ろうとすることができた。
- ・A、B、Cの3視点に分けて考えることの重要性とともに、Aの捉え方次第でその後はどうにでも変わってしまうという落とし穴の怖さも感じた。
- ・Aをしっかり読み取らないと、B、Cにつながっていかないと思う。読み取りの難しさを感じた。
- ・「経験」＝「学び」と考えればよいのでしょうか…。
- ・記録が、翌日の保育に活かされていなくて気がする。
- ・表面的に行きだけではなく、子どもの姿の中身、人間関係も含めて見ていくことが必要である。
- ・活動としては幼児を捉えられても、内面としていかに捉えられているか悩んでいる。
- ・記録をとったことで安心してはいけない。記録が本当に幼児理解になっているか問うことが大切だ。
- ・よし悪しではなく、なぜそう思ったかを語り合うことが大切である。
- ・教師の計画性と子どもの主体性との重ね合わせの難しさ、大切さを強く感じた。

(4)園内の教員の学び

先のアンケートによる参観者の感想と各学年保育検討会を行った実感から、目的3については、以下のようなものが挙げられた。

目的3 保育を多面的に捉え、自分たちの学びに取り入れる

- ・研究会の意図が、実践を通して伝わった。
- ・記録に対して等身大で取り組んでみたところを、そのまま発表できた。

- ・園内での教員同士で見えにくくなっている面や、気付けなかった考え方を知ることができた。
- ・限定し焦点を絞って記録することでポイントが明確になるが、常に一つの見方として活用しないと、記録だけが先行してしまう恐れもある。
- ・どの形式の記録にも、メリット・デメリットはある。その特徴を分かった上で、有効な組み合わせなどを考えて保育に合った記録の方法をとっていくことが大切である。(エピソード記録とマップ型記録の組み合わせなど)
- ・記録を行うことで、見方が深まり、手立ても工夫される。記録をそのような手段にしていくことが大切である。

(5)記録を活かした教員研修

今回は、日頃本園の各担任が記録しているものを協議会資料として提示し、さらに、参観者にも記録用紙を配布して記入してもらう方法をとった。まず、参観者のアンケートには、「ありのまま」「具体的」「生々しい」といった自身の日常と重ねる言葉が多く挙げられた。これは、各参観者が、本園の教員と同じように保育を見て、記録を書くことを自身で体験することで、より当事者感をもって、提示された記録に共感したり、疑問を抱いたりすることにつながったと考える。各担任も「研究会の意図が伝わった」「等身大の取り組みが発表出来た」という手応えを感じているように、提示する側と参観者が互いに、記録を介して、当日の保育を語り合うことができたと考える。具体的には、幼児の姿から経験を捉える大切さや評価をマークで記すことでイメージしやすくなることへの共感、記録することでとらわれてしまうことへの課題意識等は、主に、提案した本研究における記録内容について示唆を得ることができた。

次に、小人数での記録に基づくディスカッションを行ったことで、アンケートには、「翌日の保育に活かしきれていない」「Aがしっかり読み取れないと、B、Cにつながっていかない」といった、保育の質を問うディスカッションがなされたことがうかがえる。各担任も「形式による特徴を捉えて活用することが大切」「記録は保育の手段でしかない」といった、記述内容の質を問うことにあらためてつながることができたと考える。具体的には、A、B、Cそれぞれを丁寧に捉える難しさや、記録後の活用の重要性等が挙げられた。一方で、A、Bとして読み取った幼児の経験内容は、学びと捉えていいのか、引き続き検討していきたい課題も見つかった。

参観者のアンケートに「記録をとったことで安心してはいけない。記録が本当に幼児理解になっているかを問うことが大切」という記述があったように、そして、本園教員の学びとして「記録は保育の手段でしかない…」と挙げたように、記録はあくまでも記録である。ただし、前述のように、その記録があることで、担任自身が振り返り、同僚と振り返り、さらに、参観者と振り返ることで、より多くの学びを得ることができた。当事者と第三者を結ぶ役割も記録にはあることが実感できた。保育の質を高め、教員の学びを深める、貴重な手段としての記録の活用を、今後も継続していきたい。